

令和7年度 学校だより



# りんごの里から 7月号

青森県立弘前第一養護学校 令和7年7月18日発行 進路指導主事 盛 寿寛

## なんのために生まれて なにをして生きるのか

高等部では、毎年6月（前期）と10月（後期）に産業現場等における実習（現場実習）を行っています。今年度の前期実習は6月9日～20日に行い、実施期間が数名ずれて、7月4日に全員の实習を終えたところです。高等部の保護者の皆様には、お忙しい中、事前挨拶や保護者見学、送迎、お弁当等でご協力いただきありがとうございました。

さて、現場実習では各学年に年間テーマがあります。1学年は「**“はたらく”を知ろう**」、2学年は「**“じぶん”を知ろう**」、3学年は「**“進路”を決めよう**」です。

1学年の前期は校内での実習で、地域の企業等にご協力いただき、Aグループは東和電機工業様から受託した「ボルトナット仮組」や「銅線の皮膜剥がし」を中心に、Bグループは弥生いこの広場様から受託した「おやつカプセル製造」等を中心に取り組みました。2週間、通常とは全く違う日課で活動し、時間いっぱい立ち続けて作業することも多くあり、疲れが見えた生徒もいました。進路指導部通信第2号でも触れていますが、卒業後の職場や作業場では時間いっぱい立ち仕事ということも多くあります。立って作業をすることが、当たり前のことになってほしいと思います。

2学年は校外での実習が2回目で、基本的には、1年次とは異なる実習先で実施しました。昨年度の反省から、体調管理に日々気を付けて過ごした生徒、「次は一般企業での実習をしたいので、就労継続支援A型で良い評価をもらいたい。」という気持ちで臨んだ生徒もいました。「前の実習先より今回の方が自分に合っていた。」など、自分に合った職種・作業種を考えた生徒もいました。実習先からの評価を踏まえて、自分の現状や適性を知ったり、ステップアップを考えたりすることにつながっています。ぜひ、後期実習も自分自身を知るための有意義な実習にしてほしいと思います。

3学年は、今年度の2回の実習が勝負になります。3学年では、実習先から受け入れの可否を回答していただいています。すでに「受け入れ可能」との評価をいただいている生徒もいる一方、「再度実習をして決める」という評価の生徒もいます。また、福祉事業所は受け入れ可能人数が決まっているので、空きがなければ利用はできないという現実もあります。後期現場実習は進路先を決めるための実習になります。これまでの4回の現場実習の評価を踏まえながら、進路先にしたい企業や施設を決め、内諾を得られるようにがんばってほしいと思います。

最後に、前期現場実習のオリエンテーションで、私から生徒に伝えたことを紹介します。

多くの方が一度は耳にしたことがある『アンパンマンのマーチ』。楽しい曲調ですが、歌詞に注目すると、私は深い内容が心に染み、そして、「明日もがんばろう」と奮い立たせてもらっています。生徒の中には、「現実を突き付けられた気がする。」と言った生徒もいました。

1番は「**なんのために生まれて なにをして生きるのか**」、2番は「**なにが君のしあわせ なにをしてよろこぶ**」という問い掛けからスタートします。これは、進路を考える上でとても大切な視点です。本校の大多数の生徒が、高等部卒業と同時に社会人になります。自分が社会の一員として何ができるのか、どのように生きるのか、そして、自分にとっての「幸せ」や「生きがい」とは何なのかを考えることはとても大切なことです。進路とは、「自分らしく生きる道」を見つけることです。生徒の皆さんには、アンパンマンのように自分の中にある「やさしさ」や「勇気」を信じて、1回1回の実習を大切に、熱い心で、高等部3年間を過ごしてほしいです。自分の生きる道を見つけ、笑顔で歩めるように、全力でサポートしていきます。

